



クローバー動物病院

だより 第13号



今回は、イヌとネコの嗜好性(しこうせい)についてです。

嗜好性(しこうせい)

はじめに…一般にヒトは雑食性、イヌは肉食に近い雑食性、ネコは肉食性といわれています。

嗜好性を決定する要因

⇒におい、味、食感、大きさ、形状、密度

☆におい…犬種、年齢、性別、環境などで嗅覚の強さが変わります。

- 犬種…鼻の長い犬種、毛の色の濃い犬種ほど嗅覚がするどいといわれています。例えば、警察犬で活躍しているシェパードは嗅覚が鋭いです。
- 年齢…成犬・成猫になるにつれて嗅覚がするどくなり、高齢になるとにぶくなってきます。
- 性別…オスよりメスのほうが嗅覚はするどいです。
- 環境…湿度の高い環境では、鼻の粘膜に水滴がつき、嗅覚がにぶくなるといわれています。

☆味…味覚は一種類ではありません。旨み、塩味、甘み、酸味、苦みがあります。

味覚が強いのは、ヒト>イヌ>ネコの順になります。

- 旨み…ネコのほうがイヌより感じやすいです。

○塩味…イヌは薄い塩味を甘みに感じます。
ネコは、肉の中に多く含まれているナトリウムを摂取できたので、塩味を感じにくいといわれています。

よく、ネコは魚好きと思われていますが、本来はネズミを捕って食べていたように肉食です。これは魚をよく食べる習慣のある日本人と長く生活してきたことで、魚も好きになったようです。

○甘み…イヌは甘みを感じます。そのため、甘いものを与えれば、その味を覚えてしまいます。このことで、近年、肥満や糖尿病のイヌが増えています。ちなみに、ネコは甘いものには無関心ですが、水には敏感で、特定のお水しか飲まない子もいるそうです。

○酸味…イヌ・ネコとも感じます。

○苦み…どちらも感じますが、特に、ネコは非常に敏感です。そのためか、中毒になる子はイヌのほうが多いです。

余談…イヌに比べ、ネコは食べるのが下手です。特に、ハナペチャのネコは大変です。下手だと食べるのに時間がかかり、逆にストレスを感じてしまう子もいます。また、イヌでは丸のみする子が多くみられます。このようなことから、フードメーカーは、においや味や食感だけでなく、食べやすい形状やかませるように工夫した形状を研究して、日夜開発に取り組んでいます。